

農機・建産機向けパイプ加工のコーケン工業

多くの女性社員が現場で働く①、和室の休憩所を改装したキッズルーム



そのうち60歳以上が3割弱。80代の社員は最高齢の89歳を筆頭に10人いる。定年前から勤務している社員のほか、他社からの再就職者も多い。

「苦肉の策」で開始

もともとバブル時代に若い社員の採用が難しかったときの「苦肉の策」で始めたシニア世代の雇用だったが、今では同社の大きな戦力となっている。シニア世代の社員を基

仕事面での課題、困り事などをヒアリング。本人に働く意思のある間は働いてもらう。

同社全従業員の約4割が女性。小径のパイプ部品加工が多く重量物が多い。ベテランのノウハウや人生経験の伝承は、若い世代や一般社員にとっても大変刺激になっていると大石社長は語る。

1997年からは障がい者雇用も始め、雇用率は5・59%を誇る。これまでも「楽に作業ができる環境づくり」に注力。特別な制度や専門部署はなく、個人の個性や希望に

2019年からKLT（コ）食堂を大幅にリニューアルし、同社全従業員の約4割が女性。小径のパイプ部品加工が多く重量物が多い。ベテランのノウハウや人生経験の伝承は、若い世代や一般社員にとっても大変刺激になっていると大石社長は語る。

1997年からは障がい者雇用も始め、雇用率は5・59%を誇る。これまでも「楽に作業ができる環境づくり」に注力。特別な制度や専門部署はなく、個人の個性や希望に

独自施策で働きやすい環境づくり

多数のシニア世代や女性が現場で活躍

農業機械や建産機向けのパイプ部品加工を手掛けるコーケン工業（本社・静岡県磐田市、社長・大石剛氏）は、独自の施策で社員の働きやすい環境づくりを推進している。「チームコーケンの幸せ」をコンセプトに、工場内の作業環境や社内体制を整備。現場では多くのシニア世代や女性らが活躍する。老若男女の知見、技術の融合が、同社の得意分野である多品種小ロット

対応機能の維持、新たな技術・製品開発につながっている。コーケン工業では役員、正社員、派遣社員らを含めて10〜80代の約340人が働く。

本的に特別扱いせず、一般適した職場への配属を行って社員と同じ社員研修を受けている。障がい者施設と提携し、仕事の間を過ごすほか、磐田市の近隣の袋井市にある特別支援学校からの研修、職場



リニューアルした食堂

女性の育休取得率は100%。復帰後は時短勤務制度や子連れ出勤を利用する社員も多い。土曜日の子連れ出勤などに対応するため、工場内の和室休憩所をキッズルームに改装。社員が交代で子どもの面倒を見るようにしている。

福利厚生も充実

コーケン工業では福利厚生面の充実も図っている。2年前の9月に工場内にある社員

（後藤 隆博）